

興居島（松山市）における閉校になった小学校の校歌について

The school song of the closed primary schools of „Gogoshima“-Island

教育学部音楽講座：市川克明

序 ～ 研究に至る経緯

2014年10月19日日曜日、松山市高浜沖に浮かぶ興居島の旧泊小学校の運動場と体育館において、「瀬戸内しまのわ2014」の一環として「『しまのわ学校文化祭 in ごごしま』長い長いしまのテーブル文化祭」が開催された。その際、研究者はNPO法人 „An die Musik 愛媛“ の依頼により音楽部門を担当し、数年前に閉校あるいは休校となった3つの小学校の校歌を編曲することになった。この3つとは、閉校になった「泊小学校」、「由良小学校」および休校中の「釣島分校」である。

現在、全国的にかなりの小中高等学校の統合あるいは閉校となっているが、これは愛媛県においても例外ではない。松山市内に限っても、小学校では2009年に8校が閉校、1校が休校となっている。さらに、中学校では1970年代から90年代初頭にかけて6校、2005年に怒和島の怒和中学校が閉校となっている。旧北条市と中島町¹では3つの小学校および16の中学校が²、すなわち小中学校合わせると、戦後、松山市内だけで34校が閉校となっている。これらの学校は、それぞれの地域の教育機関としての役割を担うと同

時に、コミュニティの中心として機能してきた。また、その全てが学校のシンボルでもある「校歌」を持っていたわけである。

そこで、松山市内で上記のような縁があった興居島と釣島の閉校になった小学校の校歌に関して調査することを思い立った。本稿は、この地域の歴史および閉校に至る時系列的な流れを概観し、3つの小学校の校歌に関する情報を整理し記録を残すことを目的とする。作品分析、制定に至る経緯など様々な側面から3つの小学校の校歌を取り上げる。

1. 興居島について

興居島は松山市の高浜港の沖に位置する面積8.74平方キロメートル³、人口1169人⁴、589世帯⁵の島である。明治期までは暖地性の林檎や桃が栽培されていたが、大正以降から第二次世界大戦までは桃とびわが栽培され京阪神方面に出荷された⁶。戦後は、柑橘類を中心に温州みかんや伊予柑が栽培され、現在でも島のほぼ半分の土地が果樹栽培に利用されている⁷。したがって、農業従事者が多く、実に全労働人口の約54

¹ 2005年、北条市、中島町（忽那諸島中島）が松山市に編入される。

² 1948年から49年に旧栗井村、河野村、北条町、難波村、正岡村の5校、1960年に久谷村の2校、1961年から1972年に中島町の4校1965年から66年に北条市の4校、2003年に中島町の1校が閉校になっている。

³ 松山市統計書平成25年度版（以下「市統計書」と略）、松山市役所総務部行政情報課編集 2015, p. 19, 由良地区 4,77 km², 泊地区 3,97 km²

⁴ 市統計書, p. 19

⁵ 市統計書, p. 22

⁶ 高崎哲郎, 『評伝 工人 宮本武之輔の生涯』, ダイアモンド社 1998, p. 12

⁷ 高崎, p. 12

パーセントにのぼる⁸。島を囲む海は潮流が激しく、以前は鯛の漁場として知られた⁹。

第2次世界大戦後6848名であった人口は、一貫して減少し続け、1955年には6000名を割り、1970年には4000名あまり、1985年には3000人あまり¹⁰、1995年に約2100人、2009年、すなわち最初に由良小学校、泊小学校の統合要望書が提出された翌年の統計では1566人となっている¹¹。また、高齢化率も高く2009年には65歳以上の人口は全人口の53パーセントであり、これは松山市38地区中最高である¹²。

歴史的には、明治時代初頭、松山県、石鉄県の行政上の区域・地名変更などの経過を経て、1889年(明治22年)12月15日の町村制実施により和気郡興居島村となり、1897年(明治30年)4月1日の郡の統廃合により温泉郡に編入され¹³、1954年(昭和29年)2月1日に松山市に編入された¹⁴。松山市編入以前は、島の北東側から「門田」、「泊」、「由良」の3地区に分かれており、御手洗、泊、船越、鷺ヶ巣、北浦、由良、門田、馬磯の8集落が地名として存在した。編入後は、大字興居島門田、興居島泊、興居島由良の3つの地域名で称され、1969年に住居表示実施されてからは、門田町(まち)、泊町(まち)、由良町(まち)となり現在に至っている。

2. 由良・泊小学校、釣島分校の沿革

2009年3月31日、由良小学校、泊小学校が閉校になり、翌4月1日に新たに松山市立興居島小学校が同中学校に隣接して開校した。同時に、由良小学校の分校であった釣島分校も興居島小学校の分校となったが、その後在校生が不在となり、2012年3月末で休校となった。

かつて興居島に存在した小学校の歴史は古く、創立は明治初期にさかのぼる。1872年(明治5年)に由良小学校¹⁵、翌1873年(明治6年)には泊小学校¹⁶、1874年(明治7年)には門田小学校¹⁷が創立されている。

1884年(明治17年)、由良小学校と門田小学校は統合され中和小学校となり、1887年(明治20年)由良小学校に改称、1902年(明治35年)には由良尋常小学校となっている¹⁸。また、1913年(大正2年)6月6日には釣島に興居島村立由良尋常小学校釣島分校教場が創立し、1名の教員が教鞭を取り始めた¹⁹。一方、泊小学校は1887年(明治20年)泊尋常小学校となり、尋常小学校4カ年を設置した²⁰。

第2次対戦中は、1944年より疎開児童が興居島の小学校に在籍するようになり、同年8月には全児童の対面式を行ったとの記録が残っている²¹。これらの疎開児童を含むと、1945年の由

⁸ 市統計書, p. 28

⁹ 高崎, p. 12

¹⁰ 『ふるさと興居島』, 興居島中学校郷土歴史クラブ 1985, p. 73

¹¹ 統計書, p. 22

¹² 田中正人, 『ふるさと探訪』, 2012年初版, 2014年改訂版, p. 49

¹³ 『ふるさと興居島』, p. 6

¹⁴ 同年10月1日、温泉郡余土村も松山市に編入、興居島の歴史に関しては、田中正人著『ふるさと探訪』に詳述されている。

¹⁵ 『ふるさと興居島』, p. 65

¹⁶ 『ふるさと興居島』, p. 67

¹⁷ 『ふるさと興居島』, p. 65

¹⁸ 『ふるさと興居島』, p. 65

¹⁹ 『ふるさと興居島』, p. 63

²⁰ 『ふるさと興居島』, p. 67

²¹ 田中, p. 9

良小学校は全児童数715名²²、1946年の泊小学校では全児童数473名²³である。

なお、1947年に温泉郡興居島村立興居島中学校が設置され、由良小学校、泊小学校、釣島分校の施設を借用し教育を行うことになった²⁴。釣島分校では、1948年中学校が併設され、教員3名がその任に当たったが、1951年閉校となり興居島中学校に統合された²⁵。

1954年、温泉郡興居島村が松山市に編入されると、村立興居島中学校、村立泊小学校、村立由良小学校はそれぞれ松山市立と称することとなった。興居島中学校は全島とその近隣の島嶼部が、泊小学校は北部の門田地区と泊地区が、由良小学校は南部の由良地区が校区となった。人口の減少に伴い、児童数も減少していったが、特に1965年から1985年の20年間で由良小学校、泊小学校とも児童数は約3分の1になった²⁶。1985年の在籍児童数は、由良小が121名、泊小が68名、釣島分校が8名である²⁷。クラス数は、例えば泊小学校では、1965年以来学級数は6クラスで、ひと学年1クラス、教員数9、あるいは10名である²⁸。

2004年(平成16年)8月13日付けで、興居島の2つの小学校統合に関しての要望書が、興居島町内会連絡協議会、泊公民館長、由良公民館長、泊小学校長、由良小学校長、興居島中学校長、および各校と釣島分校のPTA会長より松山市長に提出された。要望事項は以下の4点である。

1. 泊・由良両小学校の統合(興居島中学

校との併設)及び由良小学校釣島分校の存続について

2. 小学校の新校舎建設について
3. スクールバス及びスクールボートの運行について
4. 特色ある学校づくり推進のための通学区域弾力化について

この中でははっきりと小・中併設型の一貫校の設置を求めている²⁹。これ以降の泊・由良両小学校の統合に至る経緯は次ページの通りである³⁰。

2005年4月からの通学区域の弾力化により校区外からの児童10名が通学を始め、また、由良小、泊小の交流学習も始まった。その後も毎年規模を拡大し継続され、統合の前年には校区外からの通学17名、交流学習は高学年が週3回、中学年が週2回、低学年が週1回実施され、この他に行事においても両校の交流学習は行われた。2007年8月の松山市長への要望書には、交流学習実施より、「複式授業の解消、中学校教師による授業、充実した個別指導などを通じ、授業の活性化を図ると共に、より多くの友達とのふれあいを通じた社会性や協調性の育成」する効果があったことが述べられている³¹。

2009年3月31日、由良小学校、泊小学校は閉校となり、4月1日、松山市立興居島小学校が開校、同月8日、開校宣言が発表された。

現在、泊小学校跡地では「しまのテーブル」という取り組みが進んでおり、廃校舎を利用し2013年にカフェを開業、「しまの自然・しまの

²² 『ふるさと興居島』, p. 66

²³ 田中, p. 9

²⁴ 『ふるさと興居島』, p. 66

²⁵ 『ふるさと興居島』, p. 63

²⁶ 『ふるさと興居島』, p. 66, p. 67, p. 69

²⁷ 『ふるさと興居島』, pp. 63-68

²⁸ 『ふるさと興居島』, p. 68

²⁹ 松山市長への要望書, 2004. 8. 13

³⁰ 松山市教育委員会学校教育課の資料をもとに著者が作成。

³¹ 松山市長への要望書, 2007. 8. 10

興居島小学校統合計画の経緯

年	月日		
04	8/13	要望書の提出	泊小, 由良小学校の統合, 釣島分校の存続
			統合小学校の建設 通学区域の弾力化
	11/4	興居島小中一貫教育推進委員会のまとめ	要望書についての検討 通学区域の弾力化…2005年度から実施 その他の事項に関しては継続審議することを決定
	12/18-	特色ある学校づくり事業として校区外から児童生徒を募集	
05	3/10	興居島地域懇談会	通学区域の弾力化による校区外からの児童生徒の通学, 推進委員会の継続審議について説明
			特色ある学校づくり事業開始
05	4 -	通学区域の弾力化により校区外から児童生徒が通学 (10名)	
		由良小, 泊小の交流学習…高学年週2回, 中学年週1回, 行事	
06	4 -	通学区域の弾力化により校区外から児童生徒が通学 (15名)	
		由良小, 泊小の交流学習…高学年週2回, 中学年週2回, 行事	
07	4 -	通学区域の弾力化により校区外から児童生徒が通学 (15名)	
		由良小, 泊小の交流学習…高学年週3回, 中学年週2回, 低学年週1回, 行事	
	5/7	興居島の小学校の統合の陳情	泊小, 由良小学校の統合 統合小学校の建設
	6/18	教育長への要望書の提出	

年	月日		
07	8/10	市長への要望書の提出	1. 泊・由良両小学校の統合 (興居島中学校との併設) および由良小学校釣島分校の存続について
			2. 小学校新校舎の建設について
			3. スクールバスおよびスクールボートの運行について
			4. 特色ある学校づくり推進のための通学区域弾力化について
07	10/31	地域説明会	
	11/17	興居島統合小学校開校推進協議会発足	校名公募 校歌作成部会メンバー公募
08	1/23	興居島統合小学校開校推進協議会	統合小学校名 (案) …「興居島小学校」 校章デザイン公募
	2/1	統合小学校名 (興居島統合小学校開校推進協議会案) を学校教育課へ提出	
	4 -	通学区域の弾力化により校区外から児童生徒が通学 (17名)	
		由良小, 泊小の交流学習…高学年週3回, 中学年週2回, 低学年週1回, 行事	
	6/30	松山市学校設置条例の一部改正議決	

文化・しまの暮らしを学び, しまの未来を育む」の理念のもと, 様々なイベントが開催されている³²。本稿冒頭で紹介した演奏会もこの一環である。由良小学校校舎は, 2015年に解体され, 跡地は更地となっている³³。また, 興居島小学校釣島分校は, 前述の通り2012年4月より休校となっている。

3. 由良小学校校歌

由良小学校の校歌は, 1962年 (昭和37年) の同校創立75周年記念行事の一環として歌詞が募集された³⁴。作詞は現在も興居島に在住する中矢幸子氏で, 氏自身も由良小学校の卒業生であり, 第二次大戦末期, 疎開により東京から移住した

³² <http://shimanotable.com> (2016. 2. 23)

³³ 2016. 2. 17 現在

³⁴ 中矢幸子, 「桃の花の校歌によせて」, 『松山市立由良小学校開校百周年記念誌』, 松山市立由良小学校PTA 開校100周年記念誌編集委員会 1988, p. 90

由良小学校 校歌

作詞：中矢 幸子

作曲：清家 嘉寿恵

(♩=104)

1. 桃の花に囲まれた
我等が母校由良小学校
明るい声で歌おう歌おう
希望の歌を高らかに
2. みかんの香(か)に包まれた
我等が母校由良小学校
清い声が聞こえる聞こえる
はらかな空へほがらかに
3. 青い海をめぐらした
我等が母校由良小学校
若い声が流れる流れる
平和な海にいつまでも

とのことである³⁵。中矢氏は、歌詞の募集当時の1962年、由良小学校の付近に在住しており、小学校での生活の様子が朝から晩まで手に取るようにわかり、校歌の作詞の際にはこの様子を参考にした、と述懐している³⁶。なお、歌詞は松山市教育委員会の大野静氏により選ばれ補訂され

た³⁷。作曲は清家嘉寿恵氏³⁸である。清家氏は、昭和13年(1938年)、愛媛師範学校の講師を始めとし³⁹、1948年、文部教官三級⁴⁰、新制大学設立後も愛媛大学教育学部の作曲の講師⁴¹、1957年より助教授として⁴²、1971年までその職にあった⁴³。氏は、特に愛媛県内の合唱関係で活

³⁵ 2016. 2. 10, 中矢氏との対談による

³⁶ 中矢, p. 90

³⁷ 中矢, p. 90

³⁸ 中矢氏は、清家寿賀恵氏と記載しているが、嘉寿恵の誤りである。中矢, p. 90

³⁹ 『愛媛県学事関係職員録 昭和13年版』, 愛媛県教育会 1938, p. 15

⁴⁰ 『愛媛県学事関係職員録 昭和23年版』, 愛媛県教育会 1948, p. 12

⁴¹ 『愛媛県教育関係職員録 昭和25年版』, 愛媛県教員組合 1950, p. 12

⁴² 『愛媛県教育関係職員録 昭和32年版』, 愛媛県教員組合 1957, p. 181

⁴³ 1971年3月31日退任

躍し、愛媛県内の数多くの小中学校の校歌⁴⁴、伊予銀行社歌などを作曲している⁴⁵。

制定された校歌は、1962年11月1日に開催された記念式典においてオルガン伴奏で⁴⁶ 披露された⁴⁷。泊小学校と同じく、その当時、由良小学校の児童数は400名程度で、徐々に減りゆく中とはいえ戦前に匹敵する児童数であった⁴⁸。

この校歌は興居島の代表的農産物である（あるいはあった）、「桃」、「みかん」、そして島の周りの「青い海」と自然を扱った詞から始まり、第3、4句の「我等が母校 由良小学校」につながる。第5、6句はいずれの節も小学生の「声」をそれぞれ「明るい」、「清い」、「若い」と表現し統一感を与え、第1節の「歌おう」、第2節の「聞こえる」、第3節の「流れる」という歌詞がリフレインされ、それがシンコペーションのリズムで強調されている。シンコペーションは、全曲を通じ何度も現れ、この校歌に独特の躍動感を与えている。冒頭の八分休符から始まる動機は第4句の「由良小学校」のファンファーレのような、律動感ある旋律を紡ぎ出すきっかけを与えている。第5句は八分休符により始まり、続くシンコペーションの連続は小学生たちの活気ある動きを描写しているようである。形式的には、第1から3句までのそれぞれの句は1小節単位の旋律に対応し、第4句「由良小学校」は、2小節が与えられている。ここまでの5小節が前半部分を形成し、第5、6句は中間部の3小節が、最後の4小節は2小節ずつ第7、8句が相当する。これを図示すると次のようになる⁴⁹。

したがって、歌詞のフレーズと小節のフレーズが規則的でない3部形式となり、通常、4小節

の小楽節を基本とすることの多い校歌とは異なった印象を与える。しかし、旋律 c，すなわち第4句と第8句の旋律は完全に共通し、第3部分のA'が4小節の小楽節になっているため、アシメトリーを感じさせず安定感を醸し出している。

部	A				B			A'	
	a		b	c	d		d'	e	c
旋律									
小節	1	2	4	4-5	6	7	8	9-10	11-12
小節数	1	1	1	2	2		1	2	2
句	1	2	3	4	5	6		7	8
歌詞	桃の花に	囲まれた	我等が母校	由良小学校	明るい声で	歌おう	歌おう	希望の歌を	高らかに

休符、シンコペーション、また付点音符による律動感、躍動感と、統一感が融合した魅力ある校歌となっている。

中矢氏によれば、「その当時は現在の体育館が建っている所も桃畑だったし、山にも桃の花が咲いて」いて、「海も、貯木もされていなかったのも、水も藍く砂浜も広がりをもって」いたが、1988年の百周年記念誌発行の時点では、すでに、「自然の景色が変わり、歌詞の表現と環境の変化に、隔たりが」できたことを述懐している⁵⁰。

⁴⁴ 『高らかに響け-我が校の校歌自慢-平成17年度』、松山市教育研究協議会文化部 2006、松山市内では、市立清水小学校、番町小、新玉小、久枝小、潮見小、和気小、三津浜小、生石小、垣生小、道後小、伊台小、難波小、立岩小、北条小、栗井小、勝山中、内宮中、垣生中、余土中、湯山中、久米中、久谷中の校歌は氏の作曲である。

⁴⁵ 『伊予銀行五十年史』、伊予銀行五十年史編纂委員会 1992、巻頭

⁴⁶ 中矢, p. 90

⁴⁷ 『ふるさと興居島』, p. 65

⁴⁸ 第2次大戦中から終戦後にかけて疎開児童が在籍し、1945年の統計では児童数は715名となっている。児童在籍数は、1888年121名、1897年177名、1912年449名、1926年503名。

⁴⁹ 小節は前奏を除いた小節番号。

⁵⁰ 中矢, pp. 90-91

4. 泊小学校校歌

泊小学校の校歌は、1953年(昭和28)年、歌詞を泊地区在住者から公募し制定された⁵¹。この当時、児童数は400名弱で、学級数も9クラス、教員数も12名と、同小学校の歴史の中で、戦後の一時期を除けば最も児童数の多い時代であった。

歌詞の選者は愛媛大学教育学部長重松信弘教授で、一等は当時興居島在住であった門屋睦夫氏⁵²の作詞したものが選ばれた⁵³。門屋氏は、校歌制定の公募が発表された1952年当時、愛媛大学教育学部で理科を専門とする学生であり、ご本人の恩師より「今度、泊小学校では校歌を作る懸賞募集をすることになった。君も応募してみてはどうか。」との誘いを受けた⁵⁴。門屋氏はそれ以前より俳句をたしなんでいたものの校歌の歌詞を作ることは初めてのことであり、同じ下宿に住んでいた友人に校歌について尋ねたとのことである⁵⁵。東予出身であった友人は、「石鎚」の山の名が含まれる自身の母校の歌詞を紹介し、門屋氏はそこから人々に知られた「自然」、小学生への希望、ということをも歌詞に盛り込みたいと考えたとのことである。

応募原稿は2番までの歌詞であったが、3番を付け加えることを望まれ、新たに現在の2番

にあたる歌詞を付け加え、当初の歌詞の1、2番の最後の一行「興居島泊小学校」を削除し、いくつかの漢字を平仮名に改めた上で完成した⁵⁶。新たに作詞された第2節の冒頭、「四季のくだもの浜辺にかおり」は、特に選者であった教育学部学部長より高い評価を受けたとのことで、前述の通り当時の興居島は、現在の特産物のみかん以外に桃、林檎、びわなど四季折々の果物が生産され、それが一年中香っていたのを表したかった、とのことである⁵⁷。作曲は、当時愛媛大学教育学部教授の杉本秀治氏に依頼された⁵⁸。杉本氏は専門は鍵盤楽器であり⁵⁹、昭和27年度から昭和31年度の愛媛県学事関係職員録⁶⁰には愛媛大学教育学部教授としての記録がある⁶¹。愛媛大学五十年史には、「本学部発足時、『音楽』1講座が置かれた。その時の教官は杉本秀治…(以下略)」⁶²との記述があり現時点で詳細は不明である。

歌詞は、第1句から第6句までは七七調で、各節とも第3句を「ぼくもわたしも」で、第5句を「共に六年(むとせ)の」で共通させ、第7句を「みたすよ」、「のぼすよ」、「築くよ」と韻を踏み、第8句を「泊小学校」で終わらせ統一感を与えている。門屋氏は、前述の通りそれ以前より俳句を趣味としており、また、愛媛大学内で俳句会を主催していた。その会員には、

⁵¹ 『我が校の校歌自慢』, p. 24

⁵² 門屋氏は、昭和25年(1950年)愛媛大学教育学部理科専修生入学、昭和29年(1954年)に卒業後、代用教員として由良小、泊小で、本教員として由良小学校釣島分校、和気小、高浜小、桑原小、八坂小、久枝小、石井小、宮前小に赴任した。

⁵³ 『我が校の校歌自慢』, p. 24, ここには二等の中村定雄氏の歌詞、および重松教授の評も掲載されており、当時の校歌制定に際しての注目点が示され興味深い。

⁵⁴ 門屋睦夫, 『釣島分校 思い出文集「開校70周年式典」』, 1983, p. 23

⁵⁵ 2016. 2. 24 門屋睦夫氏との対談, 以下の門屋氏の弁はこの際に筆者自身が採取したものである。

⁵⁶ 『我が校の校歌自慢』, p. 24, 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁵⁷ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁵⁸ 『我が校の校歌自慢』, p. 24

⁵⁹ 『愛媛大学五十年史』, 愛媛大学50年史編集専門委員会 1999, p. 252

⁶⁰ 『愛媛県教育関係職員録 昭和27年版』, 愛媛県教員組合 1952, p. 215, 『愛媛県教育関係職員録 昭和31年版』, 愛媛県教員組合 1956, p. 177

⁶¹ 1957年10月14日退任

⁶² 『愛媛大学五十年史』, p. 252

泊小学校 校歌

作詞：門屋 睦夫
作曲：杉本 秀治

♩=120 *mf*

こし ふじ の やく まも の まほ どべ には あか おお ぎり
せ と の う み な り ち し お は かた おき りり

mf

5 *cresc.*

ぼ く も わ た し も け だ い い り そ こ う
ぼ く も わ た し も げ れ かな り こ ら う
ぼ く も わ た し も げ れ かな り こ ら う

cresc.

9 *mp* *cresc.* *mf*

と も に む と せ の の ぞ み を か け て
と も に む と せ の の つ ち ぞ ら を あ ち かわ
と も に む と せ の の つ ち ぞ ら を あ ち かわ

mp *cresc.* *mf*

13 *f* *mf*

み た す よ と ま り し ょ う が っ こ う
き ば す よ と ま り し ょ う が っ こ う
き ば す よ と ま り し ょ う が っ こ う

f *mf*

1. 小富士の山を 窓辺に仰ぎ
ぼくもわたしも 気高い理想
共に六年の 望みをかけて
みたすよ 泊小学校
2. 四季のくだもの 浜辺にかおり
ぼくもわたしも きれいな心
共に六年の つとめをちかい
のぼすよ 泊小学校
3. 瀬戸の海鳴り 血潮はたぎり
ぼくもわたしも 元気な体
共に六年の 力を合わせ
きずくよ 泊小学校

ドイツ語や英語の教員も含まれていたが、この俳句への熱心な取り組みがこの校歌の魅力的な七七調、言葉の韻やイントネーションに寄与している⁶³。また、「気高き理想」、「きれいな心」、「元気なからだ」は小学生に対する強い希望を表している⁶⁴と述べている。

各節の冒頭は、興居島の自然を歌う、「小富士⁶⁵の山を」、「四季のくだもの⁶⁶」、「瀬戸の

海なり」から始まる。すでに述べた通り、島を囲む海は潮流が激しく、それが第3節の「瀬戸の海なり」の歌詞に通じるが、それが子どもたちの「元気なからだ」へとつながり、興居島の自然と小学生への願いを込めた語調のよい整った歌詞の校歌である。

付点四分音符のリズムを基調としたなめらかな旋律は、勇ましさとよりも暖かさ素朴さ

⁶³ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁶⁴ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁶⁵ 標高282m の山で泊地区に隣接している。シルエットが富士山に似ていることから、以前から伊予小富士とも呼ばれた。太古の昔は火山であった。

⁶⁶ 第1節で述べた通り、興居島では柑橘系くだもの、特にみかんの産地として知られる。

を感じさせる。2小節ごとのフレーズが2つで小楽節、それが2つで大楽節の二部形式の楽曲である。また、1953年校歌制定当時の楽譜には、強弱記号、レガート記号などの細かな演奏記号が記されており、丁寧な楽曲作りが見て取れる⁶⁷。

5. 釣島分校（休校中）校歌

松山市立興居島小学校釣島分校⁶⁸は現在休校中であり、本稿の「閉校した小学校」という分類からははずれるが、再開の見通しは立っていないためここで取り扱う。1980年、門屋睦夫夫妻は釣島分校に赴任を希望し複式学級を担当した。赴任当時、教頭と夫妻との3名で担当し、全児童数は8名であったとのことである⁶⁹。初年度、門屋氏は5、6年担当で、同年度の卒業生は1名、「校歌がない卒業式は怪訝な感じがし、「卒業式の出席者は少なく、さびしく、静かであった」、と述懐している⁷⁰。1983年（昭和58年）、釣島分校開校70周年記念祭を行うことになり記念祭、運動会などの行事、そして門屋氏ほかの提案でその一行事として分校校歌を懸賞募集することになった⁷¹。その際の応募資格は、興居島、釣島の住人、あるいは出身者、その学校に赴任したことのある教員で⁷²、応募は21点あり、愛媛大学憲法学教授の大野盛直氏が

選者となり⁷³、門屋氏が特撰、佳作が2作選ばれた⁷⁴。選者の大野教授も門屋氏同様俳句をたしなみ、その経緯で憲法学者の教授が選者となったと門屋氏は述べている⁷⁵。また作曲は当時の由良小学校校長を通じ同校長の知人であり先輩の元音楽教師⁷⁶、1977年まで伊予市立伊予小学校校長であった亀井英男氏⁷⁷に依頼された。新作の校歌は1983年5月31日に分校全児童により発表された。なお、その当時、2クラス児童8名、職員数2名であった⁷⁸。

泊小学校の校歌同様、七七調で作詞されている。当時、多くの釣島の住民は半農半漁で生計を立てており、特に、タコ壺漁と建て網漁がさかんで果物生産とともに重要な産業であった⁷⁹。赴任地である釣島の自然と産業、それに子どもたちの希望をテーマとして作詞したと門屋氏は述べている⁸⁰。島の自然を詠った各節の冒頭句、すなわち第1節「みかんの花」、第2節「瀬戸の海鳴り」、第3節「灯台」から始まるが、灯台は釣島灯台を指し、これは1873年（明治6年）、イギリス人により建設されたもので⁸¹、釣島のシンボルである。第2句の最後の「～の中に」、第3、4句の「ぼくもわたしも～学ぶ」、第7、8句の「明日を～釣島分校」を共通させ統一感を持たせている。

付点八分音符と十六分音符によるアウフタクトで始まるこの校歌は、2小節ごとのフレーズ

⁶⁷ 泊小学校沿革史より

⁶⁸ 2009年興居島小学校が創立される前は、松山市立由良小学校釣島分校であった。

⁶⁹ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁷⁰ 門屋睦夫、「釣島分校に想う」、『我が校の校歌自慢』、2006, p. 23

⁷¹ 門屋 (2006), p. 23, 門屋睦夫, 『釣島分校 休校記念文集 釣島 九十九年の思い出』, 釣島分校休校記念文集編集委員 2012, p. 23

⁷² 門屋 (2012), p. 23

⁷³ 門屋 (2006), p. 23

⁷⁴ 門屋 (2012), p. 23

⁷⁵ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁷⁶ 門屋 (2006), p. 23

⁷⁷ 『愛媛県教育関係職員録 昭和52年版』, 愛媛県教育会 1977, p. 145, 亀井氏は、1940年愛媛師範学校本科第一部卒業である。なお門屋氏は、門屋 (2006), p. 23において「宮内小学校校長、亀井英男先生」と記している。

⁷⁸ 『愛媛県教育関係職員録 昭和58年版』, 愛媛県教育会 1983

⁷⁹ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁸⁰ 2016. 2. 24 門屋氏との対談

⁸¹ 『ふるさと興居島』, p. 63

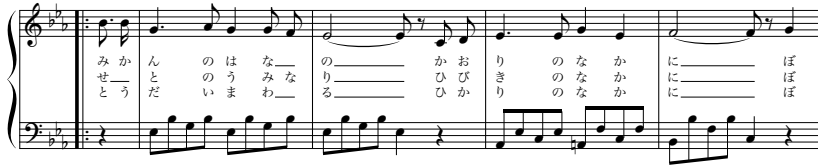
釣島分校 校歌

作詞：門屋 睦夫
作曲：亀井 英男

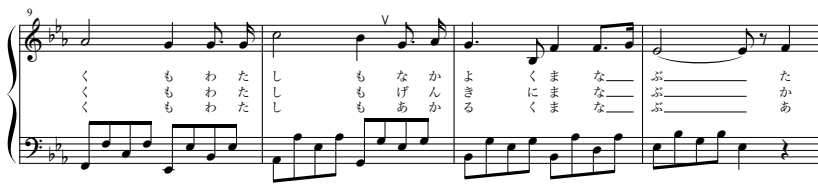
Moderato (♩=96)



1. みかんの花の香りの中に
ぼくもわたしも仲良く学ぶ
高い理想へ手に手をとって
明日（あした）を創る釣島分校



2. 瀬戸の海鳴りひびきの中に
ぼくもわたしも元気に学ぶ
堅い誓いへ腕（かいな）を組んで
明日（あした）を築く釣島分校



3. 灯台回る光の中に
ぼくもわたしも明るく学ぶ
新たな希望へほほ笑みあって
明日（あした）を照らす釣島分校



で、4拍めはアウフタクトという構造で成り立っている。歌唱部分は16小節からなり、8小節2つの二部形式で構成されている。全曲を通じて現れるアウフタクトの付点音符により、躍動感ある明るく元気のよい校歌となっている。また、付点八分音符、十六分音符、八分音符などが多用されているため、速度は比較的緩やかな *Moderato* ♩ = 96 を指定しており、勇ましさとともになめらかさが感じられる。

1, 2番の最後は、属音から主音へ5度下降し主音である一点変ホ音で、曲の最後は4度上行し二点変ホ音で曲を閉じる。作詞の門屋氏は、「第三番の歌い終わりは、高く明るく盛り上がり

で、釣島を美しく歌い上げているとも感じた」と述べている⁸²。まさに「明日を照らす」という歌詞を見事に表現しているといえよう。

6. 終わりに

興居島の閉校になった2つの小学校と、現在休校中の釣島の分校の校歌について島の歴史と現在の様子を含めて調査した。始めに述べた通り、それぞれの学校には長い歴史があり、主として人口減による理由で統廃合が進んでいくのは全国的な傾向であり、今後さらにこの動きは加速するものと思われる。校歌はその学校その

⁸² 門屋 (2006), p. 23

ものがなくなると同時にその役割を終える。しかし、これまで幾千もの子どもたちがこれらの校歌を歌い、慣れ親しんだ校舎、風景とともに学んできた。これもまた歴史である。一度、忘却の彼方に消えていった校歌は今後おそらく顧みられることはほとんどないのであろう。多分、何かの企画で、あるいはメディアの特集などで紹介されることはあるのかもしれない。

興居島の新しい小学校は2009年に開校した。つまり、それ以前にあった小学校が閉校になってから現在まだ数年しか経っていない。今ならまだその当時の記録が残り、また校歌の作詞者など歴史の生き証人が存命であり、その記録を残すことができる、と私は考えた。実際、今回の執筆にあたり、由良小学校、泊小学校、そして釣島分校の作詞者に直接お会いでき、様々な思い出話とともに語っていただいたのは貴重な体験となった。作詞者がどのような経緯で作詞するに至ったのか、どのような思いでこれらを作ったのか直接知ることができた。ここに、3校の校歌の作詞者、門屋陸夫氏、中矢幸子氏、興居島統合小学校新設に関する経緯をまとめた資料、要望書などの貴重な資料を提供していただいた松山市教育委員会学校教育課、資料閲覧を許可していただいた松山市立興居島小中学校に深く感謝の意を表したい。

なお、中矢氏は新設の興居島小学校の校歌も作詞することになった。現在の校歌のそれぞれの節は、「さあ、みんな一つになろう」という詩から始まる。そして、「輪になろう」、「肩組もう」、「手をつなごう」と閉じる。氏によれば、以前は由良地区と泊地区の住民同士の関係は必ずしも円滑ではなかったという。祭りになればいざこざが起きて、というようなことも伺うことができた⁸³。そこで、この地域の小学校が統合することになり、「一つの学校になることは、いろんな問題があるけれど、やはり、それを乗り越えて行くことで、『さあ、みんな一つになろう輪になろう』というフレーズが浮かびました」と述べている⁸⁴。応募数15、16編

で何度か選考委員会の会合を持ち他の委員より助言を受け、最終的に中矢氏の歌詞が採択されたとのことである⁸⁵。なお、作曲は愛媛大学教育学部教授の井上洋一氏である。今後、この校歌が大勢の子どもたちによって歌われることになる。古い歴史がその幕を閉じ、また新しい歴史が始まるのである。

参考文献：

興居島歴史関係

- 1) 田中正人、『ふるさと探訪』, 2012年初版, 2014改訂版
- 2) 『ふるさと興居島』, 興居島中学校郷土歴史クラブ 1985
- 3) 高崎哲郎、『評伝 工人 宮本武之輔の生涯』, ダイアモンド社 1998

記念誌

- 4) 『高らかに響け-我が校の校歌自慢-平成17年度』, 松山市教育研究協議会文化部 2006
- 5) 『松山市立由良小学校開校百周年記念誌』, 松山市立由良小学校PTA 開校100周年記念誌編集委員会 1988
- 6) 『閉校記念誌 121回目の南風』, 松山市立由良小学校閉校実行委員, 2009
- 7) 『ひろい心 松山市立泊小学校閉校記念誌』, 泊小学校閉校記念誌編集委員会 2009
- 8) 『休校記念文集 釣島 九十九年の思い出』, 釣島分校休校記念文集編集委員 2012
- 9) 『釣島分校, 思い出文集「開校70周年式典」』, 1983
- 10) 『興居島中学校 五十年の歩み』, 松山市立興居島中学校創立五十周年記念誌編集委員会 1997

統計ほか

- 11) 松山市統計書平成25年度版, 松山市役所総務部行政情報課編集 2015
- 12) 『愛媛県学事関係職員録 昭和13年～昭和23年』, 愛媛県教育会 1938-1948
- 13) 『愛媛県教育関係職員録 昭和24年度～昭和32年度, 昭和45年, 昭和52年, 昭和58年』, 愛媛県教員組合 1949-1957
- 14) 『愛媛県教育関係職員録 昭和45年, 昭和52年, 昭和58年』, 愛媛県教育会 1970, 1977, 1983

※本稿では、西暦表記を基本とし、必要に応じ年号を併記した。

⁸³ 2016. 2. 10, 中矢氏との対談による

⁸⁴ 中矢氏提供の歌詞を作詞した際の覚書きより。

⁸⁵ 中矢氏提供の覚書きより。